

資料8：医師国家試験の回数別合格者数

厚生省

回数	施行年月日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
80	61.4. 5～6	9,507	7,951	83.6
81	62.4. 4～5	9,940	8,573	86.2
82	63.4. 2～3	9,672	7,854	81.2
83	元.4. 8～9	10,037	8,829	88.0
84	2.4. 7～8	9,488	7,862	82.9
85	3.4. 6～7	9,812	8,256	84.1
86	4.4. 4～5	9,515	7,988	84.0
87	5.3.20～21	9,664	8,698	90.0
88	6.3.19～20	9,255	7,982	86.2
89	7.3.18～19	9,218	7,930	86.0
累計(1回～89回)		310,717	257,997	83.0

資料9：医療関係者審議会臨床研修部会臨床研修改善専門委員会最終報告

—卒後臨床研修の今後の改善について—

厚生省* (平2.11.20)

はじめに

医療関係者審議会臨床研修部会は、昭和61年に小委員会を設置し、昭和63年3月まで臨床研修の問題点の提起と改善の方向性について検討を行い、その整理を行った(別添1)。本委員会は、同部会の専門委員会として、昭和63年9月に設置され、小委員会での議論を踏まえ卒後研修制度の改善、とりわけ到達目標と評価基準等のあり方を中心に具体的な検討を行うこととなった。

本委員会ではまず具体的な卒後臨床研修の到達目標の設定についての検討を行い、その検討結果を中間報

告としてとりまとめ(別添2)昨年6月臨床研修部会より「卒後臨床研修到達目標」として厚生大臣に意見具申された。この到達目標についての関係各界の反響に基づき、本委員会は引き続き到達目標達成のあり方等の検討を行ってきたが、今般その結果を最終報告としてとりまとめたので、ここに報告する。

1. 臨床研修開始以前

昨年6月に当委員会の中間報告として具申した卒後臨床研修到達目標(以下「到達目標」という。)は、卒前教育及び卒後臨床研修を通じて達成されるべき目標を提示したものである。

中間報告で述べたように、卒前教育において、将来医師として具有すべき態度、基本的知識や技能の修得のため指導医の監督下に一定範囲の医行為を伴う臨床

* 医療関係者審議会臨床研修部会臨床研修改善専門委員会、委員長：前川 正